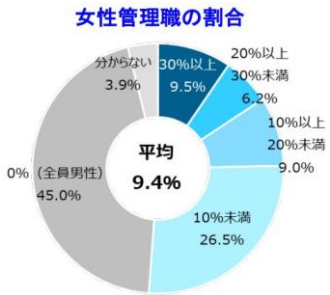
第200号

# 図書室だより

2024/2/9 発行

## 目標5：ジェンダー平等を実現しよう

今、世界の国々では、男女間の不平等・格差をなくし、平等な社会を目指しています。が、職場等で昇進選考時に、実力や実績以外に**性別・人種**も加味され、昇進等を阻まれる事があります。この事象を表す**「ガラスの天井」**という言葉があります。有名な例として、2016 年アメリカ大統領選挙でドナルド・トランプ元大統領に敗れたヒラリー・クリントン氏が**「最も高く硬い『ガラスの天井』は打ち破れませんでした。しかし、いつか誰かが打ち破るでしょう。それが、私たちが今考えているよりも早いことを願っています」**というコメントがありました。**「ガラスの天井」**は世界中に存在しており、もちろん日本も例外ではありません。イギリスの経済週刊誌「エコノミスト」によれば、日本のガラスの天井指数は、2022 年では、30 か国中 29 位と最下位。日本の女性の管理職割合は、2022 年に過去最高の平均 9.4%に上昇。しかし、諸外国と比べ依然低いままです。政府は 2020 年代早期に女性管理職の割合を 30%するとの目標を上げていますが、女性管理職が 30%を超えている企業は現在でも未だ約 1 割ほどです。




今日でも東アジアでは、儒教の影響からか男は仕事、女は家事という性差の役割の考えが根深く浸透しており、日本もその例外ではなく、あらゆる場面で**「ガラスの天井」**が一切の疑問もなく存在していると思います。**女性やマイノリティ、社会的弱者の誰もが、生きやすい世界になるには、すなわちジェンダーの平等の実現**こそが、これまでの社会通念を大きく変える最速の方法であり、且つ、それが一番の原動力になるのではないかと、私なりに色々と調べていくうちに上記の考えに至りました。

## ☆日本の天井 時代を変えた「第一号」の女たち☆

右の本は、筆者の石井妙子さんが、人生の先達にあたる女性たちが重圧に耐えて歩み進んだ半生と、その中で熟成されていった味わい深い言葉を、次の世代に伝える懸け橋になりたいとの強い思いで筆をとった本です。女性という理由だけで、彼女たちの優れた能力や才能、学問の探求の道を阻まれ、男子優位の状況にあっても屈することなく、分厚い「ガラスの天井」を自らの努力と行動力、才覚で、突き破り、わが道を貫き通した女性、いや、人間の物語です。勇気をもらえます。

男子も、絶対に読むべき本だと強く思いました。

## 社会を動かすのは私たち自身

**記念すべき第200号**では前号に引き続き、日本女性の男女格差の現実を取り上げました。日本以外でも、中華文化圏の東アジアでは、男尊女卑の考えや因習・慣習・しきたりが未だに残っていますし、南アジアのある国では、早婚の慣習(13歳位で結婚)が女性の社会進出を阻んでいる現実があります。ジェンダーの問題はとても奥が深く、前号と今号の紙面だけでは、すべてをお伝えできたとは全く思っていません。ですが、自分には関係ない、解決できない難しい現実だからと、思考を停止したり、目をそらせることなく、私たち自身が当事者であると自覚すること、社会の動静にアンテナを張りめぐらす癖を身につけるとことが、社会に変革をもたらすのではないかと思えてきました。

ジェンダー問題は、決して他人事ではないと強く思えてきました。

**文責：副部長 1-3 N.Y**